

# こいた 小板まきばの里通信 Vol 14.1

～ホテルの名前を当ててみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

## ■キャンプ場周辺で夏の植物を探索しよう！



オオマツヨイグサ



ウツボグサ



オカトラノオ



ドクダミ



ツルアジサイ  
(クリの木の上部)



ヨツバ  
ヒヨドリ



ヤマボウシ



ノアザミ



ハンカイソウ



ハルジオン



ノハナ  
シヨウブ



ノリウツギ



ナワシロ  
イチゴ



クサレダマ

## ■里山の自然観察 ～ホテルの名前を当ててみよう～

6月後半、夜の気温が高くなってくると、小板集落のあちらこちらでホテルが見られるようになります。小板集落のホテルは数は多くないのですが、人工のあかりが少ない暗闇の中、すぐ近くを飛んでくれるホテルの光は意外なほど明るく感じます。ここで見られるホテルは3種類。最初に飛び始めるのは一番大きなゲンジボタル。幼虫はきれいな川に棲む巻貝を食べて育つので、川の近くで見られます。2秒程度のゆっくりした間隔で点滅しながら曲線を描いて飛ぶのが特徴です。ゲンジボタルから少し遅れて飛び始めるのは一回り小さなヘイケボタル。幼虫はたまった水に棲む巻貝を食べて育つので、田んぼやため池の近くで見られます。ゲンジボタルと同じようにゆっくり点滅しますが飛び方が直線的なのが特徴です。一番遅く飛び始めるのは小さなヒメボタル。幼虫は山に棲むカタツムリを食べて育つので、山の斜面で見られます。ヒメボタルは他のホテルと違って短い間隔でせわしく点滅するのが特徴です。キャンプ場周辺でホテルを見かけたら、ホテルの名前を当ててみましょう。